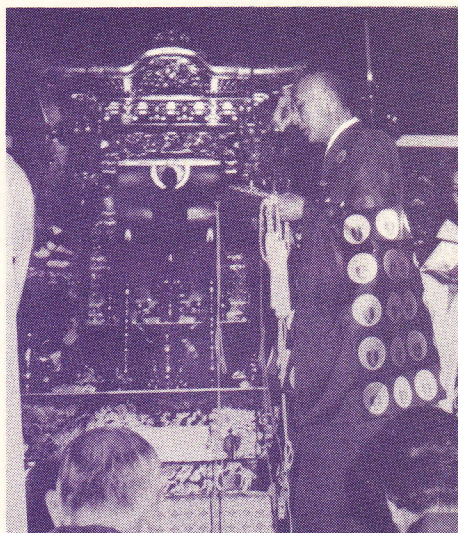


廣福寺だより

4号

今日の御法に遇ふぞ嬉しき

お念仏の声満堂に、御遠忌勤まる



昨年六月四日、五日の両日日本山仏光寺御門主様をお迎えして親鸞聖人七百回御遠忌、当寺開創四百周年記念の法要が、にぎにぎしくしかもおごそかに勤まり、幸いに天気清朗遠近から門信徒多数の参詣でにぎわい「五十年に一度の勝縁」を随喜するお念仏の声が満堂にあふれ、老いも若きもひとしく聖人の御遺徳をしのび真実の御法に遇えたよろこびをわがち合った。(写真は武石忠雄氏の提供)

御礼のごあいさつ このたびの御遠忌法要に当たり本山仏光寺御門主様の御下向を仰ぎ教区御法中の御出仕を頂き門信徒の皆様多数の御参詣のうちに厳肅盛大に勤修できました

讃 仰

うつし世に色は匂へど蓮の華
今日の御法に遇ふぞ嬉しき

国上山 信月

ことは御同慶にたえないところであります。これもひとえに皆様の御懇念と御協力の賜物と衷心御礼を申し上げる次第であります。

当寺の御遠忌は火災後の復興等の事情により御正当の年から二十二年遅れました。年次計画では来年度実施の予定でしたが「老僧健在の中に勤めようではないか」という気運が盛り上がりお内陣の莊嚴も篤志の方々の御寄進で整い勤修にふみきった訳であります。御遠忌当日の満足げな老僧の面影をしのび本当によかったと思われてなりません。実行委員の皆様からは献身的な御協力を賜りここに厚く御礼を申し上げます。

実行委員長

山岸義正



《7 日》

11月7日、8日

報 恩 講

午前10時 おつとめ
布教 松島義弘師
正 午 おとき
午後7時半 お初夜

《8 日》

午前10時 おつとめ
布教 原 公明師
正 午 おとき

皆様お誘い合わせ、お参り下さるよう御案内申し上げます。

お念仏に励む御縁

御門主様の御親教 (要旨)

この度の御遠忌に多数のお同行が参詣され聖人ゆかりの越後の地にお念仏の声が満ち満ちておりますことは、聖人御教化の偉大さお念仏の力と申さねばなりません。五十年に一



度のありがたい御縁にあいえた喜びをお念仏に励む御縁とし聖人の御恩をしみじみと改めて味わってみることが肝心であります。その御恩というのは本当の仏法にあらうことができたということ、それによって日々の生活の不安と苦悩の現実を乗り越える大きな力と喜びをえたということであります。聖人は御和讃に「生死の苦海ほとりなし／ひさしくしづめるわれらをば／弥陀弘誓のふねのみぞ／のせてかならずわたしける」「弥陀観音大勢至／大願のふねに乗じてぞ／生死のうみにうかびつつ／有情をよばふてのせたまふ」と示されました。聖人九十年の一生は如来のおよび声

によびさまされての御生涯でありました。御伝文に「一口ニ世事ヲマジヘズ唯仏恩ノフカキ事ヲノブ声ニ余言ヲアラハサズモツパラ称名タユル事ナシ……ツイニ念仏ノイキタエヲハリヌ」とあるのは聖人御一生の結論であり人に生まれて真実のみのりをきくことができた悔いなき一生であったということです。この法要を御縁に聖人の御恩をかみしめ聖人の心を心としてお念仏とともに日々を心豊かに過ごしてほしいと思います。

苦しみを乗り越える力

随行布教使の復演 (要旨)

聖人の御教化から七百有余年、御法を伝えるてこの寺も四百年たちました。その間嬉しいこと悲しいこと……さまざまのことがありました。飢饉、火災、戦いを苦しみながら乗り越えてきました。何によって乗り越えてきたのでしょうか。それは人間の智慧と努力であります。印度のアクバル大王がビルダという

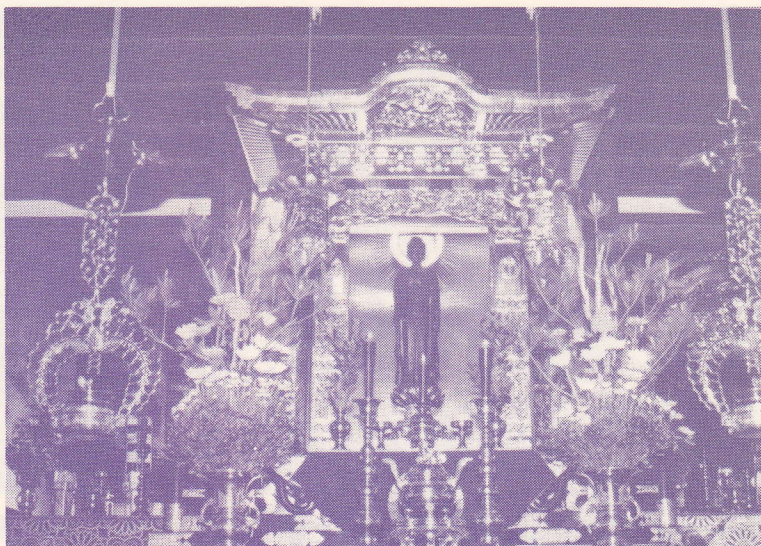


男に「ウソとマコトの距離はいくらか」とたずねた時男は「2インチ半王様の目玉と目玉の距離でございませう。何事も自分の眼で確かめて見る

ことでございます」と答えたという。本当のものを見る眼は仏法にふれなければならぬ。お釈迦様の最初のお説法「正見」、心安らかに間違ひなくものを見よという人間の生きる智慧、これはビルダの答とピッタリ一致しています。この教えが日本に脈々と受けつがれてきました。御開山聖人は何を教えられたか。それは「おかげさま」ということです。人間は自分の思いになうものは次から次へとほしくなりウソかマコトかわからぬままに行動してけつまずく。自分の智慧を過信し自分の力におごって苦しむ。欲と腹立ちと愚痴で塗炭の苦しみにあえぐ。それを御門主様は生死の苦海と聖人が説いて下さったと申された。聖人は御恩を喜べとおっしゃる。人のおかげで生かされている。その奥底に阿弥陀如来の御恩がある。それを喜びつつ我々の祖先は苦しみを乗り越えてこられた。昭和十五年この村で業火があった。この寺の住職は一生そのしがらみにまきこまれ念仏の教えを説くために真剣に勉強された。本山で何回か講義を受けましたが静かな言葉の中に強い信念を持っておられた。人に言えない苦しみ、それ乗り越えるもの、聖人は「弥陀弘誓のふねのみぞのせてかならずわたしける」と示された。一期一会の御遠忌の御縁を仏の御恩と頂き拝む時我々を起ち上がらせる力が生き生きとわいてくるのであります。

内陣のお荘厳整う

御遠忌までに御宮殿の塗り箔、須弥壇の新調、上卓・前卓の塗り箔、金灯籠とお荘厳が立派に整いました。篤志者はじめ永年にわたる女性講、梵鐘講中の方々の御懇志が結集されております。

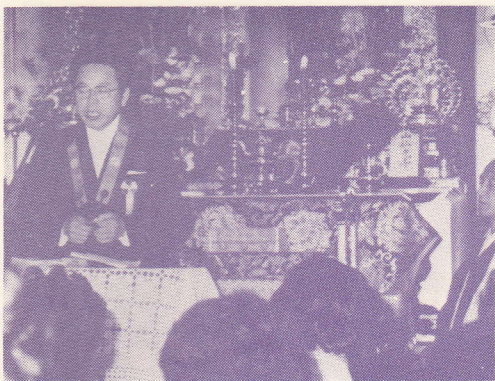


御門主様の御親修

おごそかな奏楽の中に法要に御出仕の御門主様(写真左)、十三人のかわいらしい稚児さんが内陣に出仕、御遠忌法要に華を添えてくれました。(写真下)



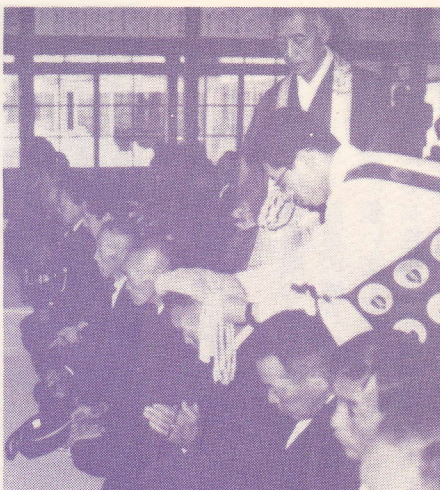
お同行の中には御遠忌にあった喜びを胸にお浄土へ還られた方も、写真左手前の右から故丸山リイさん(58.6.16)86歳、故小林百代さん(58.12.14)88歳



聞法の輪を広げよう

ール、聞法感話を発表された鈴木七次郎、鈴木孝、近山侃子の各氏。

の歩み、聞法集いで当寺聞法会の活動のアッピ

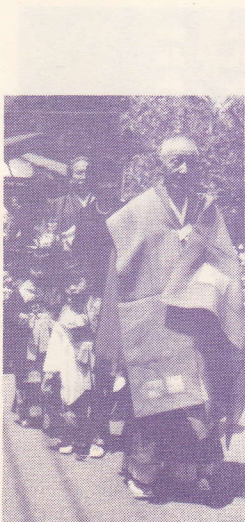
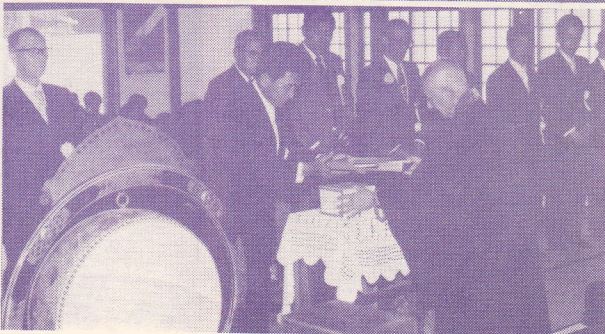


帰敬式 (写真上)

66人の方々がおかみそりを受け感激も新たに仏弟子となりました。法名授与の代表は武石イクさん、誓詞朗読は林部直人さん。

表彰式 (写真下)

御門主様から本山表彰を受ける大谷統司氏と柏原恵行氏。当寺住職から表彰を受ける代表の小林昭氏。



庭儀式の前駆 おねりの宿を勤められた実行委員長山岸義正氏御夫妻。二度の御遠忌にあった前住職もおねりの列に。

古式も豊かに
繰りひろげる法要絵巻

庭 儀 式

山門から御入堂の御門主様 (写真下)



御門主様の長柄持ちに奉仕する当
寺勝手頭の菅保氏 (写真上)

延々とねり歩く庭儀式の行列に75
人の稚児さんが参列、仏縁を結び
ました。(写真下)



I 昭和58年度 当寺勸金決算書

〈収入の部〉

科 目	決 算 額	予 算 額
勸 金	3,016,500	2,500,000
懇 志	405,000	0
寺 族 懇 志	500,000	500,000
預 金 利 息	10,852	7,500
繰 越 金	58,504	58,504
計	3,990,856	3,066,004

- ・懇志は木村三千雄殿、平岡豊七殿、渡辺ノブ殿各10万円、梵鐘講中10万5千円。
- ・寺族懇志は前住職50万円。

〈支出の部〉

科 目	決 算 額	摘 要
寺務経常費	(735,228)	
負 担 金	315,510	本山護持金ほか
事務通信費	2,820	
会 議 費	49,953	
教 化 費	106,800	本山派出布教
宮繕管理費	223,445	
門徒交際費	36,700	
事 業 費	3,204,270	御遠忌事業
繰 越 金	51,358	
計	3,990,856	

II 御遠忌事業特別会計決算書

〈収入の部〉

科 目	決 算 額	予 算 額
前年度積立金	1,200,000	1,200,000
本年度積立金	3,204,270	2,300,000
志納金香儀	2,576,535	1,500,000
諸 収 納 金	1,364,600	0
借 入 金	0	2,000,000
計	8,345,405	7,000,000

- ・諸収納金は歓迎会費、稚児参加費おかみそり冥加金、おとき券等。

〈支出の部〉

科 目	決 算 額	摘 要
事務通信費	48,590	
印刷広報費	110,904	
会 議 費	134,985	
法 要 費	966,880	
本山関係費	2,145,566	旅費、宿泊、法礼
法 礼 費	1,046,000	法中
謝 礼 費	510,000	会奉行、楽人
法中宿泊費	270,470	
賄 費	910,150	おとき、祝宴
記 念 品 費	1,292,370	
雑 費	440,450	
荘 厳 費	469,040	
計	8,345,405	

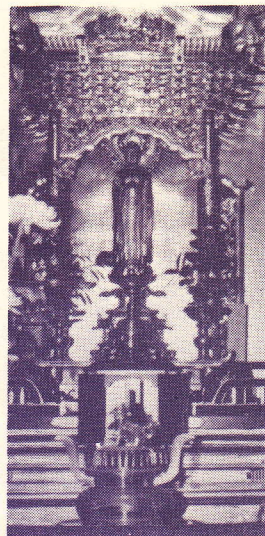
III 昭和59年度 当寺勸金予算書

〈収入の部〉

科 目	予 算 額
勸 金	2,500,000
預 金 利 息	64,964
繰 越 金	51,358
計	2,616,322

〈支出の部〉

科 目	予 算 額
寺務経常費	950,000
事 業 費	1,500,000
予 備 費	166,322
計	2,616,322



定例各字総代会議決議御通知

去る二月五日定例各字総代会議が開かれⅠ昭和五十八年度当寺勸金決算書、Ⅱ御遠忌事業特別会計決算書、昭和五十九年度当寺勸金予算書が承認されましたので御通知申し上げます。御遠忌事業も門信徒の予想を上回る志納金、懇志、また寺族懇志の上納により借入金

なしに事業を完遂することができました。本年度勸金の事業費に百五十万円が計上され本山中興了源上人御遠忌賦課金、門徒懇志に五十万円、写真(上)の心光寺御本尊御宮殿新調に百万円を支出の予定であります。門徒各位 広福寺住職・世話方一同